

第5回小山町の教育のあり方調査研究委員会 議事録

- 1 開催日時 令和5年7月7日(金)午後2時30分開会
- 2 開催場所 小山町役場 大会議室
- 3 出席委員 武井敦史委員長、岩田祥吾副委員長、池谷弘委員、山口純委員、斎藤美栄委員、杉本奈々委員、白井聖香委員、相原正和委員、菅野桂太委員
- 4 出席した事務局職員等
野木雄次教育次長、伊藤和彦学校教育課長
井上幹夫学校教育専門監、坂本竹人こども未来課長
中澤芳文学校教育課長補佐、池谷秀之こども未来課長補佐
- 5 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 教育長あいさつ
 - (3) 委員長あいさつ
 - (4) 議 事
 - ア アンケートの経過報告
 - イ アンケートの結果(中間)について
 - ウ 小山町の教育の姿について
 - エ こども園について
 - オ その他
 - (5) その他
 - (6) 閉会
- 6 議事録

(1) 中澤学校教育課長補佐が開会を宣言した。

(2) 教育長あいさつ

教育長：第5回小山町教育のあり方調査研究委員会にお集まりいただきありがとうございます。学校の様子ですが、小学校は夏休みが近いということで子供たちの顔が元気になってきていると感じます。また、プール等も始まり笑顔が多く見られるようになった気がします。中学校ですが、中体連が先週に負けてしまったところと、今週まで試合があったところがあります。負けてしまったところはちょっと気が抜けているとい

う話を校長先生から聞きましたが、もう少し頑張ってもらいたいと思っています。心配されているコロナですが、学校によってはかなり子供たちの間で（コロナが）流行っているところもあり、こちらも気をつけたいと思います。

この教育のあり方調査研究委員会も、今回で第5回ということで、いよいよ核心部に入ってきたような気がします。今までの情報を元に皆さんのご意見をそれぞれの立場からご意見を伺いたいと思っています。その意見を元に、小山町の方向性を考えていけたらと思っています。今回と次回が大変重要な鍵になると私も心しております。どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 委員長あいさつ

武井委員長：今、教育長がおっしゃったように、おそらく今年度の山場が今回と次回ぐらいになると思われます。ここでやることは、このアンケートの結果を受けて、それを言われた通りにやるということでは無いと考えております。アンケート結果をしっかりと解釈した上で、当面の方向性を探っていくとこういうことになろうかと思えます。アンケートに関する事務局の事務処理は適切かつスピーディーであるので、(アンケートの回答期限が)6月30日であることも踏まえ、ここで切っていいだろうと思っています。このアンケート結果をたたき台にしながらいろんなことを考えていければ良いと思います。今日はよろしくお願いいたします。

(4) 議事

武井委員長進行

(ア) アンケートの経過報告

議事(イ)の中で議論した。

(イ) アンケートの結果(中間)について

議事(ア)及び(イ)について伊藤学校教育課長が下記の通り説明を行った。まず、最終的に実施したアンケートについては前回の委員会の方針のとおり、対象者ごとに分けて実施いたしました。最終的なアンケートは、別添でお手元に配布してありますので後ほどご覧ください。アンケートの実施期間につきましては、6月19日(月)から6月30日(金)までの2週間で実施しました。

対象者につきましては、無作為で抽出した18歳以上の一般町民500人、町立こども園の保護者、町内各小学校の保護者、町内各中学校の保護者、小学5・6年生、中学1年～3年生の生徒全員、こども園の正規職員、小・中学校の県教職員で合計3,065人を対象

としました。

次に、実施方法についてであります。一般町民500人に対しましては、アンケートを郵送し、紙での回答とロゴフォームからの回答を可能としました。そのほか、各こども園、小・中学校の保護者、児童生徒、教職員などにつきましては、こども園、小・中学校経由で配布し基本的にロゴフォームでの回答とし、希望者には紙でのアンケートを配布することとしました。

現在、ロゴフォームでの回答につきましては、結果が出ていますが紙で回答いただいた分につきましては、改めて入力を行なわなければならない最終的な結果を出すための入力を行っている段階です。

次回の委員会で最終結果を示したいと思っております。

続きまして、資料1をご覧ください。7月3日現在での回収率、回答結果についてであります。先ほど述べました通り、ロゴフォームでの回答であります。まず、回答日の傾向ですが、グラフで現れているとおり、配り始めた直後が多く、あとは、なだらかな傾向です。なお、一般用のグラフですが、7/3が伸びていますのは、紙の回答を入力し始めたものなのでご了承ください。

次に回答率です。一般の方については500件中77件で回答率15%、こども園の保護者につきましては、343件中74件で22%、小学生の保護者は890件中217件で24%、中学生の保護者は435件中86件で20%、児童生徒につきましては、723件中622件の86%、教職員保育教諭等につきましては、174件中106件で61%でありました。全体の合計では3,065件中1,182件で39%となっております。

資料2をお願いします。こちらは、回答いただいたアンケート結果の中から、規模に関する地区毎の割合を保護者と児童生徒に限り、項目ごとに算出してみたものであります。

まず、こども園の保護者に対し、問3の1学級の人数では10-20人が良いと答えた方が74件中60件で全体の81%を占めております。問5の園の統合につきましては、あまり望ましくないと思ましくないと併せて74件中49件と66%で過半数以上となりました。

問7の学校の統合につきましては、望ましいとやや望ましいで34件の約46%、あまり望ましくないと思ましくないと40件の54%とほぼ半分といった状態です。

次に、小学生の保護者についてです。問3の適当な学級数については2学級という回答が、217件中140件で65%と最も多い意見をいただきました。

次に問5の小学校の統合につきましては、望ましいと、やや望ましいを合わせて83件で38%、あまり望ましくないと思ましくないと合わせて134件の62%と統合を望まない声が多い状況でした。

続きまして、問7の中学校の統合についても、望ましいとやや望ましいを合わせた91件の42%より、あまり望ましくないと思ましくないと合わせた126件の58%と多い状況で、こちらも統合を望まない声が多い状況です。

次に、中学生の保護者についてであります。問3の適当な学級数については、小学生保護者と同様に2学級という意見が最も多く86件

中 55 件で 64%を占めています。問 5 の中学校の統合につきましてはあまり望ましくないと望ましくないと合わせて 50 件（58%）と半数以上で、やはり統合に前向きではない意見が多いと伺えます。

次に、5～6 年生の児童と中学生についてであります。まず問 3 のクラス数については、今のままという意見が圧倒的に多く 622 件中 486 件と 78%を超えています。最後に、問 4 の学校の統合については統合した方が良いが 186 件（30%）やや良いが 170 件（27%）、あまり良くないが 151 件（24%）、良くないが 115 件（18%）と突出した意見はありませんでした。

その他、意見の主なものに記載のとおりですので目を通しておいてください。以上、7/3 現在での中間報告となります。次回は、会議の前に開催通知と一緒に最終的な結果を送付しますので、次回会議時の参考としてください。よろしく申し上げます。説明は以上です。

委員長：皆さんもアンケート結果を受け、色々と感じられたことはあると思います。ここは重要なところでもありますので、率直にどんなことを感じられたかを委員の皆さん、それぞれ言っていただきたい。

杉本委員：今の学級数に満足している回答が多かったのは少し驚きました。学校の統廃合にも関係するとおもいますが、小学校も中学校も 2 学級で満足しているということが分かりました。

臼井委員：私もアンケートに答えました。私の周りは統合することに賛成する保護者が多かったのですが、アンケート結果を見ると、「望ましくない」・「あまり望ましくない」という意見もそれなりにあると感じました。

相原委員：結果を見るとあまり変化を求めたくないからか、今のままで良いという意見が多いと思いました。また、学級数や統廃合に関してもそうなのですが、子供も保護者も地域の方も、現状で特に不便ではないのかなってというような感じが見受けられました。

もう少し、統廃合を望む方も多いのかなと思いましたが、この結果を見ると、地元の学校としてあった方がよいという意見が町内には多いと感じられました。

菅野委員：私も皆さんと同じような感想を持ちました。やはり変化や統廃合ということになった場合、どうなるのかという不安が出てくるのではないかと思います。主な意見として特にわかりやすいのが、リストにも出ている通学の負担という意見は顕著だと思われれます。圧倒的に統廃合が多いとか、このままが良いというアンケート結果ではないので、今後、小規模校にしる、統廃合にしる、今回のアンケー

トで得られた双方のメリット、デメリット、ネガティブ意見、ポジティブ意見をしっかり考慮しながら進めていく必要があると思います。いずれにしても非常に困難な道だと思います。

斎藤委員：アンケートの結果で一番気になっていたところはこども園に関するところですが、アンケート結果を見ると、今の（こども園の）状態にそれほど不満がないと受け止めさせていただきました。しかし、このアンケート結果は保護者の方たちも今後を見通してのアンケート結果ではないと思うので、現状としてそれほど不満もなく、今ある姿を受け入れてくださっているという印象を受けました。

山口委員：1点目として、このアンケートが私の家庭にも届きまして、私ではなく妻が回答しました。妻の感想として、子供の数が減っているなどの率直な感想とともに、こういうアンケートに答えるのはちょっと難しいと思いながら回答していたようです。2点目として、資料のP60, P61の結果についてですが、校區別にみていくと町内で一番規模の大きい北郷地区の結果として、学年ごとのクラス数も2学級であることが要因なのかわかりませんが、統廃合に関し「あまり望ましくない」、「望ましくない」の割合が多くなっています。また、北郷地区の回答数が1番多いことから、全体としても「あまり望ましくない」、「望ましくない」に寄っているのではないかと思います。他の地区を見ていくと、成美・明倫・足柄あたりは、ほぼフィフティフィフティぐらいになっていると思うので、地区ごとの回答をもうちょっと見てみると、北郷地区と他の地区では若干傾向が違っているのではないかなというのが私の感想です。

池谷委員：私の個人的な感想ですが、統廃合が望ましいかどうかということについては、その地区の文化は小中学校から発信されるものも多いと思います。ですので、あまり統廃合は望まないという声が多いと思っていました。しかし、「望ましい」「やや望ましい」という意見もあり、もっと「望ましくない」という意見が多いと思っていたので意外でした。

岩田委員：山口委員の意見の（校区毎の）ばらつきは加味しなければいけないと思います。全体的には50：50として考えて良いと思いますが、もう少しじっくりと分析し、私なりに読み解こうと思います。

教育長：斎藤委員の意見にもありましたが、今の状態を保護者や子供達が判断してくれていると思う。しかし、我々が心配するのは10年後のことなので、このギャップを考えないといけないと思う。

委員長：このアンケート結果は他の地域とは大分違う印象です。大都市では圧倒的に統合が多い。次回以降、ある程度の方向性を考えていきたいと思っておりますので、今回はどんなことを考えるべきなのかということを出し合って、そこについてこんなことを考えたらいいんじゃないかということ、議論できたらいいと思う。それからもう一つ、今の状態（学校規模）が良いというふうに考えている人が多いとして、それが本当に望ましいと思っているのか、それとも変化するのが怖いということなのか、これは現時点では分からないです。

相原委員：変化が怖いと思う人が多いと思う。特に不自由が無いなら、自分がいる間はそのままでいたいと思っているのではないか。自分の子供が小学生、中学生だったら、現状で特に不自由が無いなら、今のままでいいという意見だと思う。先を見据えての意見というより、現時点での回答なのだと考える。

斎藤委員：数年前に町内の幼稚園、保育園をこども園化する動きがあり、地域によっては保護者会を開いて説明会をしましたが、その中でも明るく前向きに捉えるというよりも、今の生活が変わる事への不安の方が大きかったように思う。新しいことを始めることは、誰でも不安に感じますが、こんないいことがあるよみたいなメリットを前面に出していけば、やりやすいのではと考えます。こども園化の時も保護者の方も馴染んでくださり、良さも見つけてくれるのですが、動き始めの時は不安が先行してしまうのではないかと。

杉本委員：自分の子供は2クラスだったので良かったのですが、各学年1クラスの学校に自分の子供を通わすとなると想像しがたい。やっぱりどんなに良い地域でもその地域は避けてしまうかなと思う。

委員長：クラス数の2と1の差は大きい。そして1クラスと複式学級の差も大きいと考える。

相原委員：今の時点から少しずつ運動会などの行事を学校間交流出来ればと思う。そういう交流を通じて子供たちに人数が多いと楽しいという雰囲気を作っていければ良いと思う。年に1、2回とかでも良いので、少しずつやりながら子供たちに大勢でやる楽しさを数年掛かって

も徐々にまとめていく方向でいけば、(保護者からの) 反対意見があったとしても賛成が上回ってくると思う。丁度、先ほど保護者から成美小学校のプールは 50m プールなのに水泳大会をやらないのかという話が出た。こんなに広いプールだから合同で体育授業をすればよいのではないかという話もあった。

委員長：例えば来年度から学校間交流として一部の活動を一緒にやるとなると最低でもバスの移動費がかかると思う。次年度の当初予算計上するにあたりスケジュール的に可能か。

伊藤課長：可能です。

委員長：次回くらいである程度の方向性が出てくれば、そこで予算計上について検討し、週に何日間かは一緒にやってみるといようなことをやってみても良いと思う。また、学校の校長先生などに学校間交流でこういうことが可能じゃないかというように声をいただくのも良いかと思う。私の理解では勤務校以外で兼務することに制約や問題はないはず。それよりも教育意識の問題が結構大きいと思っている。教員ほどやっぱり変わりがらないというか、新しいことをやったときに抵抗感を示すことが多いと感じる。そこのテコ入れは考えておかないといけない。

菅野委員：小規模校の弱いところを工夫して補うということか

委員長：小規模校が大規模校に行くこともあるし、一部の活動は大規模校から小規模校に行き体験的なことをやることも良いと思う。その中で先生方が、小規模校は小規模校なりの大変さを体験する。この活動の欠点は、大規模校は何も変わらず、小規模校の人たちがその弊害を克服するため苦勞して大規模校に行くみたいなイメージを持たれがちです。小山町の状況はそういうレベルではなくて、全てが小規模校の立場に立たなければいけないので、小規模校が何か一部授業を隣の学校と一緒にやらせていただきますみたいな感じではない方が良いと思う。イメージとしてはどこかの学校に所属はするが、意識としては徐々に全体を全体でみる方向にシフトしていくことが大切である。

山口委員：私はこういう会議に出させていただいているので、学校間交流のニーズについて、今後大事になることは理解している。しかし、私たち教員がもっと理解しなければ、ただ負担が増えるというマイナ

スとしてとらえてしまう。教員に現状を知ってもらい、何のためにやるのか理解してもらおう場というのが今後必要だと思う。また回数も1回だけでは不十分なため、回数を増やす必要があると思う。

委員長：最初は人間関係作るだけでいっぱいになりストレスに感じるかもしれないが、回数を重ねれば楽しくなるという可能性がある。また、ホームアンドアウェーも大事な事である。

教育長：この教育あり方調査研究委員会を立ち上げるにあたり、なぜ小規模校がダメで、大規模校だといいいのかという議論をしっかりとしてほしいという思いが一番にあった。その上で個人的な意見として、子供たちが一番伸びなくなってしまう状態はどういう状態かという、序列化ができ、そこに居着いてしまう状態だと私は思う。だから私がいつも心がけたのはそれを壊すという逆転の発想をすることだった。学校間交流を通じて子供たちが固定化された人間関係を崩しながら交流することは、今の時点で非常に重要だと思う。ただこの交流を広げていくのは良いが、10年先もそれで良いのかということである。この先1～2年は出来るかもしれないが、各学校において10年後にそれが継続できるのか今一度考える必要がある。

委員長：前提として、もはやゴールを設定できる時代ではなくなったと思う。常に変わっていく中でどう維持していくかっていう視点に立たざるを得ない状況になっている。その中で確率的に最善の選択をする必要がある。また、近隣市町の先に行くことが実はかなり重要な気がする。

菅野委員：今後のあり方研究委員会の予定だと8月に報告書の原案作成とあるが、報告書の構成はどうするのか。何かしらの提言する形にするのか、それとも調査分析で終わりにするのか。

委員長：何らかの提言があった方が良いと思うし、そうでないとなぜこの委員会を立ち上げたのかという話になってしまう。

教育長：計画では、この委員会での提言を受けて学校のあり方について地域の方とか入れながら、次の段階に進む計画になっている。そのために、教育の立場からすると、小山町の教育はどうあれば良いのかという提言が欲しいです。

委員長：提言を出すことは前提として、その提言が下手に足かせになるようなものになってしまうものでは良くない。現時点で出てきているのはおそらく学校間交流を実質的に始めていくということで、それに対しては、小規模校だけが実施するのではなく、町全域でそうしたことを導入していく。それに向けて、町の教育体系みたいなものも整備していくというような方向性はここで出せると思う。
次回の委員会開催時にはアンケートの最終結果と突き合わせながら、可能な対応措置というものが出てくると思うので、そこできちんと検討していきたい。

山口委員：アンケートの集計について横軸を100%になるように変えてもらいたい。また、資料P63の集計を小学校と中学校に分けて集計してもらいたい。

伊藤学校教育課長：わかりました。

委員長：今日のところはこれで結論を出すとかという話ではなく、次回である程度話が本題に入っていくという前段ですので、次回以降、議論で詰められるところは進めていくという形で良いと思う。

教育長：次回までに、委員の皆さんには小学校どうするのか、中学校どうするのかを是非考えてきていただきたい。

(ウ) 小山町の教育の姿について
議事(ア)、(イ)の中で議論した。

(エ) こども園について
議事(ア)、(イ)の中で議論した。

(オ) その他

(5) その他
特になし

(6) 中澤学校教育課長補佐が閉会とした。